

## 平成 23 年度 府立八尾支援学校 評価報告書

### 1 めざす学校像

『手をつなごう 未来へ』を合言葉に、子どもたち一人ひとりの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・関係機関の連携を図りながら充実した教育活動が展開される明るく元気な学校をめざします。

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動が展開する学校
- (2) 自立・社会参加に向け保護者や関係機関との連携体制がとれている実効性のある学校
- (3) 地域でのセンター的役割も発揮できる高い専門性が集積された学校
- (4) 毎日、明るく元気に学校生活を送れる健康で安全・安心な学校

#### 小学部

- ・健康な身体をつくり、意欲的に生きる力をつける。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、自分でやり遂げる力を身につける。
- ・豊かな感情を育て、意思を言葉や動作でしっかり表現する。
- ・遊びや学習の場で、手指の操作性・身体機能・知的能力等を高める。
- ・多様な集団を経験し、仲間と一緒に育ち合う喜びを知る。

#### 中学部

- ・基本的な生活習慣、態度、知識をより高め、集団への積極的な参加をうながす。
- ・健康な身体と体力を養う。
- ・多様な集団の中で多くの経験を通し、意欲をもって取り組む姿勢と豊かな感性を育て、生きる力を育む。

※高等部における就労支援及び社会参加に繋げる教育活動を実践するために、小・中・高の12年間一貫教育の充実を図る。

### 2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 23年 11月 実施分]	学校協議会における提言内容
<p>○保護者、教職員を対象に実施（％は、肯定的意見）</p> <p><b>【回収率】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者（74％）教職員（93％）で、保護者の回収率が昨年度より 10％減少した。次年度に向けて効果的な回収方法を検討する。</li> </ul> <p><b>【教育活動全般の共通項目（24項目）について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21項目が高い評価（70％以上）であったが、交流教育の達成状況（67％）が若干低い。</li> <li>・施設・設備の安全度は、低い評価（50％）であり、施設の老朽化に伴う改修要望を今後も継続する必要がある。</li> <li>・清掃状況では、職員の評価が前回 34％で今回は 77％と上昇した。これは、健康教育部が中心となって取り組む「職員清掃」が定着した成果と考えられる。</li> </ul> <p><b>【学校運営（27項目）について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・14項目は高い評価（ほぼ 80％以上）であったが、組織マネジメントの9項目は、全て 70％に達していない。特に、勤務時間等の労働条件の評価は、30％と低かった。ただ、前回と比較すると、良い方向に変化が見られる。</li> </ul>	<p>第1回（平成23年7月15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校経営計画の紹介                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒増は、支援学校のニーズが高い表れである。特に、高等部は、入学希望者が全員入学できることから、生徒増に見合った施設面の充実を引続き要望すべき。</li> </ul> </li> <li>○平成24年度使用教科書選定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童生徒に応じた選定ができています。</li> </ul> </li> <li>○地域支援状況及び居住地校交流について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育のセンター的機能が徐々に確立されているようである。今年度希望のあった 20名の居住地校交流を活性化し、継続できる働き掛けが必要である。</li> </ul> </li> </ul> <p>第2回（平成23年12月6日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育自己診断進捗状況                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の提出率が昨年度より良くなっている。</li> </ul> </li> <li>○居住地校交流                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・順調に交流が進んでいるようであるが、イベントへの参加で終わるのではなく、今後は授業交流等の増加と継続ができるよう、地域の学校との連携が大事である。</li> </ul> </li> <li>○高等部の進路状況                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部の在籍中に、労働へのアセスメントを実施してほしい。</li> </ul> </li> </ul> <p>第3回（平成24年2月21日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育自己診断結果                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の進路指導への満足度が昨年度より高く、キャリア教育が浸透しているようであり評価できる。</li> </ul> </li> <li>○24年度学校経営計画                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者のニーズを捉えていくという学校としての方向性は評価できる。</li> </ul> </li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	教育的ニ ーズを踏 まえた教 育活動の 充実・展開	<p>【家庭との情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年通信（小学部：毎週、中学部：学期に1回）や学級通信（随時）、連絡帳（毎日）等で保護者への情報提供を充実させ、家庭と連携した教育活動の推進</li> </ul> <p>【充実した学習活動の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の充実を図るとともに学習指導プログラムの研究開発するため、学部独自の教材交流会（8/24）や全校研修（1/17・18）を実施した。また、充実した学習活動を展開するため、6・12月に研究授業・見学を行い、教員間の研鑽を図った。</li> <li>・ALTを活用した国際理解教育を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業力の向上をめざし、児童生徒の実態把握と家庭との情報共有を図るため、日々の連絡帳は基より、学年通信や学級通信で保護者への情報提供ができた。今後も速やかに充実した情報の発信に努める。また、個別の指導計画の作成は、5月の家庭訪問や毎学期の懇談で保護者と連携して作成し、教育活動に活かした。</li> <li>○研究部を中心とした教材・教具の研修及び情報教育部を中心にICT機器の活用した学習プログラムの研修を実施した。また、ALTを活用した国際理解教育を4回開催し大きな刺激となった。次年度はより深化した学習活動に取り組む。</li> </ul>
取組み②	自立と社 会参加の一 層の促進を めざす	<p>【キャリア教育プログラムの研究と作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部を中心に、教員に対してキャリア教育の意義・必要性の意識を高めるための進路だよりや研修を実施した。</li> </ul> <p>【保護者へのキャリア教育の啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だより（8回）や懇談等を通じて保護者にキャリア教育の必要性を啓発した。</li> <li>・障がい者理解及び社会参加を視野に居住地校交流では、20名の児童生徒が参加した。</li> </ul> <p>【校内における支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援部を中心に、今年度は15回の言語聴覚士相談で延べ43人が指導を受け、家庭と連携した自立活動を実践した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5月の家庭訪問や懇談時に作成した個別の教育支援計画を基に、個に応じた自立活動が徐々に実践できている。特に、言語聴覚指導が充実できた。次年度は、現行の自立活動の時間内で取り組める内容にする。</li> <li>○今年度初めて実施した居住地校交流は、20名参加という大きな成果をあげた。次年度は希望者倍増と複数回の交流を実現する。</li> <li>○キャリア教育として、学校での係活動の促進と家庭での手伝いを充実できるよう保護者と連携し自立活動を実践した。</li> <li>○作業所等の施設見学を充実させた。</li> </ul>
取組み③	地域のセ ンターの機 能の発揮と 専門性の向 上	<p>【地域のセンター的機能の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は5名の地域支援担当者を中心に、約30回の相談と22回の講師派遣依頼があった。</li> </ul> <p>【児童生徒情報の共有化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部単位で人権研修として、1学期に指導・支援が特に必要な児童生徒の情報共有を図った。</li> </ul> <p>【校内初任者研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成及び指導力のアップにつなげるため、初任者と支援学校の経験の少ない教員を対象に、年間約20回の研修を実施した。</li> </ul> <p>【個人情報の保護について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護規定及び校務用ネットワーク管理運用規定を策定し1月施行とした。また、規定周知の研修を2回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域支援のセンター的機能における地域からの相談や講師派遣業務は充実していた。次年度も迅速な対応を行う。</li> <li>○支援学校の専門性向上の研修として、地域支援整備事業研修において、夏季（88名）冬季（114名）参加者があり、支援教育の専門性向上が図れた。また、校内の経験の少ない教員への研修も、OJTを活用した直ぐに実践できる内容で実施した。</li> <li>○校内で教材教具の発信は、校内イントラを通して行っている。現在情報担当が中心となり、ホームページの改良を行っている。</li> <li>○信頼と連携を基にした体制づくりでは、情報教育部を中心に、校内LANの充実と活用とともに、個人情報の保護に係る規定策定や教員への周知ができた。次年度以降の実践に注意を払っていく。</li> </ul>
取組み④	安全で安 心な学校づ くりの推進	<p>【安全確保能力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種避難訓練（火災・地震・不審者・バス）は、児童生徒が理解しやすい工夫（DVD作成や寸劇）を行なった。また、不審者対応実践訓練（2回実施）では、警察と連携し、より効果的な取組みが実践できた。</li> <li>・小学部の交通安全教育（6月）では、横断歩道の渡り方等警察と連携し実施した。</li> </ul> <p>【安全・安心な教育活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル等は、4月職員会議で全職員に周知できた。また安全面に配慮し、地域ボランティアを活用して、行事で校内巡視を行った。</li> <li>・毎月の校舎内外の安全点検の実施及びガラス破損等への迅速な事後処理はできた。</li> <li>・教育活動におけるヒヤリハットの事例を整理し、再発防止に努めた。</li> <li>・保健だより（11回発行）食育だより（11回発行）により、健康安全教育及び食育の充実を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理体制の充実を図るため、年度当初に生活指導部を中心にマニュアルの見直し及び教職員への周知を図り、警察・消防との連携強化ができた。次年度以降も内容の精査を行う。</li> <li>○校外学習時に日常経験できない「勾玉づくり」や「ボウリング」などを体験し、見聞を広める事ができた。次年度もより興味・関心のある内容に取組む。</li> <li>○PTA活動の充実では、7月の夏祭り（作業所等地域との連携）への参画をより充実させた。次年度は、PTAの行事として位置付ける予定である。</li> <li>○教員にヒヤリハット事例集作成のため、事例提出させた。次年度の教育活動に活かす。</li> <li>○保護者への情報発信としての「たより」が充実できた。次年度も内容の充実を図り、継続させる。</li> </ul>